

厚岸漁港衛生管理施設の完成

釧路開発建設部 築港課

1. 衛生管理施設整備の背景

厚岸漁港は、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網などの沖合漁業の全国有数の流通拠点として、また、コンブ、カキ、アサリ等の沿岸・養殖漁業の生産拠点として重要な役割を担っています。当漁港は、これまで陸揚拠点となっていた湖北地区の岸壁・用地が狭隘であるとともに、サンマ盛漁期においては荷捌所周辺に多数の漁業関係車両が集中するため、出荷車両との輻輳が発生し、危険かつ非効率な作業を強いられていました。また、消費者の水産物の安全・安心に対する要請に応じていくため、陸揚げから出荷までの全

工程において、鳥糞等の異物混入防止や清浄海水の導入などソフト・ハードの両面から衛生管理対策の強化が求められていました。

以上の背景により、狭隘な湖北地区から湖南地区に陸揚げ機能を移転し、効率的な車両等の動線を確保するとともに、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設の整備、高度衛生管理に対応した荷捌施設の新設等を行い、地域で取り組むソフト対策と連携した総合的な衛生管理対策の拠点となる施設がこの度、厚岸漁港に完成しました。

整備施設の概要は次のとおりです。



厚岸漁港衛生管理施設 整備箇所



湖北地区における陸揚げ状況

2. 整備施設の概要

①人工地盤(北海道開発局)

建築面積：A = 3,346.29m²

構造：鉄骨造 地上2階建

用途：(1階)荷捌施設、保管・積込スペース

用途：(2階)漁港利用者駐車場、一次避難場所

②屋根付き岸壁(北海道開発局)

施設規模：屋根施設 L = 403.0m、B = 35.0m、

内空高 12.0m(海側)、5.5m(陸側)

建築面積 10,768.61m²

構造：鉄骨造 平屋建

用途：陸揚げ岸壁(サンマ、イワシ、サケ等)

③清浄海水導入施設(北海道開発局)

(想定ピーク時最大使用量 ろ過・滅菌・冷却水約
67t/hr、原水、電解水 122t/hr)

取水ポンプ：1式(港外より取水)

滅菌装置：紫外線殺菌

ろ過機：53.3m³×2基

貯水槽：39.4m³×6基

構造：鉄筋コンクリート造

建築面積：A = 448.80m²

④荷捌施設(厚岸漁業協同組合)

施設規模：A = 1,735.61m²

構造：鉄骨造 平屋建

設備：蓄養水槽、低温倉庫、電動フォークリフト、市場控室等

⑤陸揚げクレーン(厚岸漁業協同組合)

構造：2.9t吊×3基

⑥トラックスケール(厚岸漁業協同組合)

施設規模：A = 182.51m²

構造：鉄骨造 平屋建

⑦若竹第2埠頭漁港休憩施設(厚岸町)

施設規模：A = 173.69m²

施設規模：鉄骨造 平屋建

3. 竣工式の開催

令和2年7月23日、衛生管理型荷捌施設の竣工式が厚岸漁業協同組合の主催で開催され、関係者約90人が出席しました。式では、主催者代表である厚岸漁業協同組合の川崎組合長の挨拶の後、来賓の若狭厚岸町長と、石川釧路開発建設部長、山口釧路総合振興局長より祝辞があり、その後、鏡割りが行われ会場から大きな拍手がありました。式後は内覧会として、完成した施設の見学会を行い、見学者からはスケールの大きさに驚きの声があがり、また、完成直後の岸壁には大漁旗を掲げた漁船が一斉に接岸し、華やかなムードに包まれました。

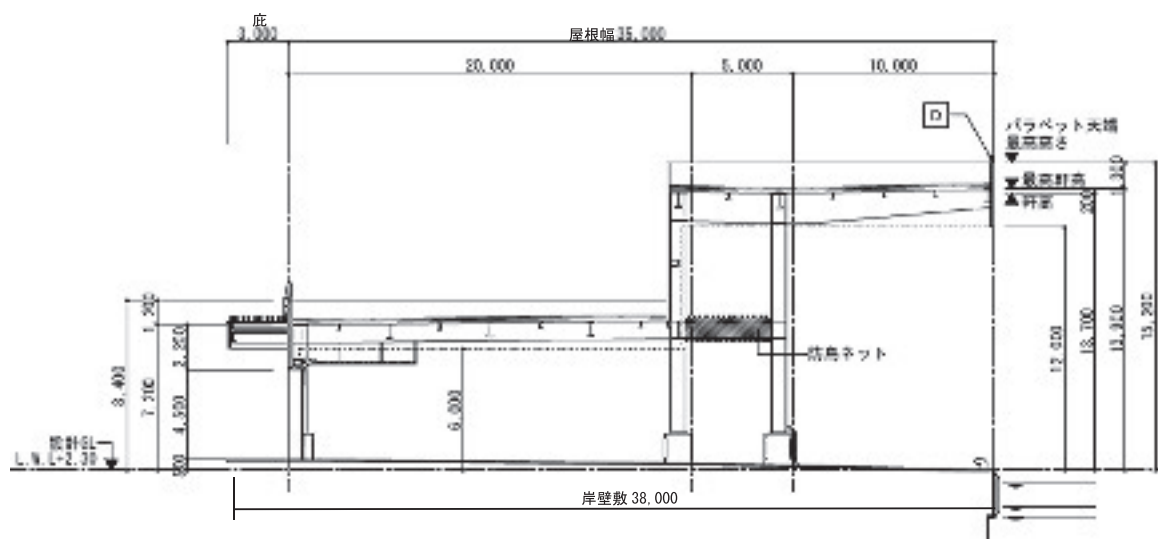
新型コロナウイルス感染症の拡大等により、水産業を取り巻く環境は厳しい状況ですが、衛生管理施設の完成を契機として、安全・安心な水産物の安定供給が図られ、地域水産業の一層の発展が期待されます。



衛生管理施設全景



整備施設位置図



屋根施設断面図



清浄海水導入施設(左:建物外観、右:ポンプ施設等)



竣工式の状況①



竣工式の状況②